イネ科通信 18

キンエノコロとコツブキンエノコロ

(2013/1/3)

　冬になるとイネ科植物で青々としているのはダンチクとスズメノカタビラぐらいです。その他のものは枯れて頴果（果実）も落ちてしまいます。下の写真（左）にみられるようにエノコログサ類では刺毛（剛毛）だけが残されています。その右側の写真（インターネットより引用）ではキンエノコロとコツブキンエノコロの頴果の大きさが比較できます。今回はコツブキンエノコロとキンエノコロについて考えてみたいと思います。
　世界の各地帯から得られた標本を世界的にみれば連続していて、両者は別種とは考えにくいという生物学者がいますが、果たしてそうなのでしょうか？

　日本イネ科図譜（長田武正著・平凡社）によればキンエノコロとコツブキンエノコロの見分け方は下記のとおりです。
　キンエノコロ……小穂は帯白色､広卵形で長さ 2.8～3mm､小穂の刺毛は黄金色で円錐花序は刺毛を除いて幅 7～9mm。2n=36
　コツブキンエノコロ……小穂は前種に比べて僅かに淡緑色を帯び、長楕円形、長さ 2～2.8mm,小穂下の刺毛は普通、紫色を帯びた汚褐色で、黄金色のものほとんどない。円錐花序は刺毛を除いて幅 5～6mm。2n=72
　日本では両者の違いは、慣れれば野外ではっきり見分けられるので別種としていると長田武正氏は述べてられています。事実、両者の同定を間違えることはないでしょう。
　キンエノコロは極めて少なくなった？
　数年前、万博公園でキンエノコロをみかけて以来、その存在を知りません。２年前？岡山理科大学の波田研のホームページを見ましたが「最近はコツブキンエノコロばかりが目立つようである」との記載がありました。
このような傾向は全国的なものかもしれません。ただし、北へいくほどコツブキンエノコロは少なくなり、北海道ではみられないようです。
　アキノエノコログサの根が存在するとアレロパシーによってトウモロコシの根の成長が著しく阻害されますが、コツブキンエノコロもアレロパシーを出してキンエノコロを駆逐したのでしょうか？

コツブキンエノコロの花穂

　コツブキンエノコロは荒地や畑地などによく見かけます。コツブキンエノコロを観ているとその花穂の長さはさまざまです。狭い範囲でも大小さまざまな花穂がみられます。下の 2 枚はいずれもコツブキンエノコロの写真です。左側写真の左端のものは 1cm ぐらいで右側写真で長い方の花穂が 18.5cm です。
　キンエノコロは最近全くみかけなくなり、写真もありませんのでなんとも言えないのですが、花穂の長さはこれほど極端に違っていなかったと記憶しています。